

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月26日更新

事務事業名	竹迫初市振興会活動支援事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	3 教育の健康	所属部	政策部	課長名 松田 勝
	施策	13 歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	商工振興課	担当者名 田代 真紀
	施策の柱	46 歴史・伝統文化(文化財を含む)の保護と継承	所属班	商工振興班	(内線) 1273
予算科目	会計	款 7	項 1	目 2	事業連番 10926
	一般				根拠法令
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	地域の観光資源である竹迫初市を実施する振興会(商工会、市、教育委員会、JA、シルバー人材センター、まちなっと”セラヴィ”、関係地区の区長等で組織)を助成し、地域振興を図る。平成20年度までは3月3、4日に竹迫のJA前で開催し、H21年度からH23年度までは集客のためヴィーブルで開催されている「こどもフェスティバル」の時期に併せて合志庁舎前で開催。平成24年度からは「こどもフェスティバル」との同時開催はされていない。H28年度は熊本地震によりヴィーブルを雨天時に使用できないことなどから、開催場所を元々あった場所(竹迫参宮線)に戻して開催。
【業務の流れ】	申請受付、交付決定、支払、実績報告 年3回の調整会議への出席及び市広報、市HP、チラシ、横断幕によるPR活動
【主な予算費目】	補助金
【意見や要望】	来場者数の減少に伴い日程や場所を変えながら開催されてきたが、初市の歴史を広く知ってもらい地元の呼び物として再び根付かせるため、H28は元々開催されていた参宮線界隈での開催が適当との意見が寄せられた。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
地域の観光資源である竹迫初市振興会に対し、地域振興を目的に補助をした。年3回の調整会議に出席した。市広報、市HPへの掲載、各区へのチラシ配布、横断幕を設置し初市PR活動を行なった。	28年度実績を基に29年度も引き続き同様の活動を展開していく。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
ア: 来場者数	人	
イ: 申請受付、交付決定、支払、実績報告処理時間	H	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	竹迫初市振興会	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		ア: 竹迫初市振興会団体数
		イ: 団体
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	伝統ある初市を後世に継がせると共に地域振興を図る。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		ア: 事業が成功したと感じた初市振興会団体数
		イ: 団体
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
来場者数が増加し初市が賑わう事で成功したと実感でき、振興会の活性化に繋がる。29年度は更に周知徹底を図り来場者数の増加につなげる。		全体計画
		~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	29年度目標(当初予算)	30年度予定	31年度見込	32年度見込
① 活動指標	ア 人		800	700	1,000	600	1,000	1,000	1,000	1,000
	イ H		5	5	5	5	5	5	5	5
② 対象指標	ア 団体		11	10	10	33	10	10	10	10
	イ 団体		11	10	10	33	10	10	10	10
③ 成果指標	ア 団体		11	10	10	33	10	10	10	10
	イ 団体		11	10	10	33	10	10	10	10
投資	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	81	81	81	81	81	81	81
入費	量	(A) 事業費計	千円	81	81	81	81	81	81	81
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	302	263	318	0	318	318	318
トータルコスト(A)+(B)		千円	383	344	399	81	399	399	399	399

事務事業名	竹迫初市振興会活動支援事業	所属部	政策部	所属課	商工振興課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 竹迫初市振興会を構成する33団体すべてが事業が成功したと判断したため
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 初市においては、これといった目玉イベントがなく集客が頭打ちとなっていたが、H28年度から内容や場所を変更し地元PTAなどの協力を得たため、地元児童・生徒の参加がかなりあった。次年度についてもさらに地元地区だけでなく県内タウン情報誌などにも積極的に情報を提供し、集客に繋げる。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 来客数が増えれば初市が成功したと判断する団体が増加するため、成果の向上につながる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似する事務がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 近年、補助金も削減して、また農政課からの物資補助も平成19年度からなくなったため、さらなる削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 会議、初市の参加のみであり削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 対象者を市民にしているため公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 初市振興会（商工会、市、教育委員会、JA、シルバー人材センター、まちなっと”セラヴィ”、関係地区の区長で組織）が実施しており役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

地域振興という点では成果目標を達成したが、初市の歴史を後世に伝えるという観点では成果の測定はできない。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策